

# アルコールランプの扱い方

## 事故を起こさないために

### 1

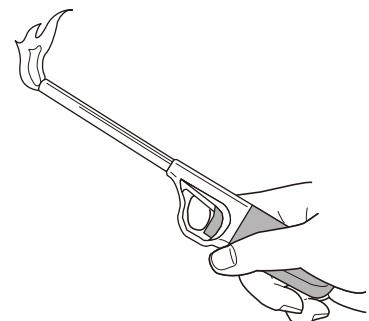
#### 使用する前の点検

- ふたは、すり合わせがよく、ぴったりと合っているか。
- 口が欠けていないか。欠けていれば取り替える。
- 上に出ているしんの長さは、5mmくらいあるか。
- 本体のガラスにひびが入っていないか。入っていれば使用しない。
- アルコールは、8分目まで入っているか。入っていなければ補充する。  
⇒ 少ないと引火する。
- アルコールを補充するときは、必ず火を消す。
- 補充にはロートを使うとよい。児童にはさせない。
- しんは、きつすぎず、ゆるすぎないか。
- しんの長さはじゅうぶんか（底についているのがよい）。
- 金属製のアルコールランプ（バイトーチ）も利用されている。安全性が高く、破損しにくく、引火することもない。

### 2

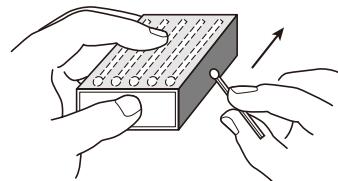
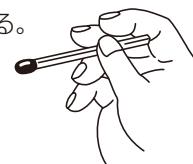
#### 他の事故防止の留意点

- 燃えやすいものは机の上に置かない。
- ぬれぞうきん・砂・毛布・消火器等を用意しておく。
- もらい火は絶対にしない。
- 火を吹き消さない。
- 本やノートなど燃えやすいものを台にして使わない。
- ガスライターはロック式のものを使用する。
- ガスライターが安全で簡単に着火できるが、  
かわりにマッチを使う場合、以下に気をつける。



#### 〈マッチの安全な使い方〉

- マッチは1本ずつ取り出して、そのつど箱をきちんと閉じる。
- 軸木の端を親指と人差し指、中指で持つ。  
⇒ マッチをする方向に人のいないことを確かめる。
- 中のマッチの薬頭が手前にくるように小箱を持ち、  
手前から向こうに向けて、薬頭をすりつける。
- 折れたマッチや使ったマッチは、必ず燃えがら入れに入れる。
- マッチを教室外へ持ち出させない。



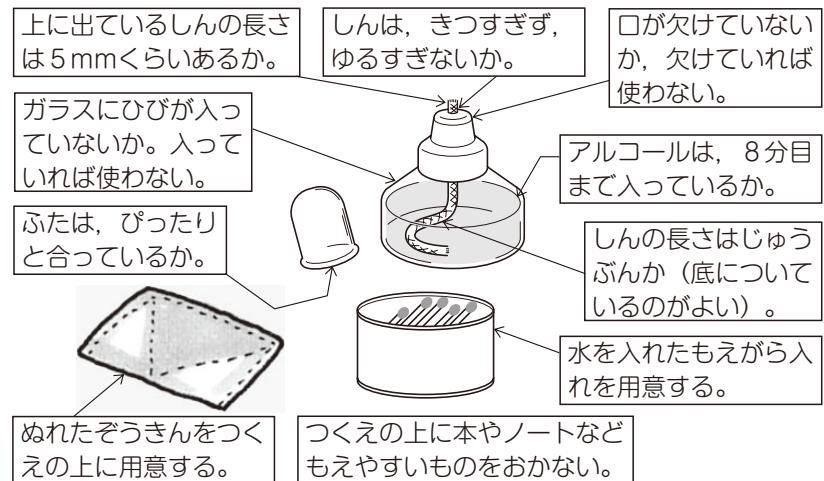
## もしものときには

- ①こぼれたアルコールに引火したときは、あわてて消そうとして火をたたいたり、振り払ったりしてはいけない。  
⇒ 火のついたアルコールが飛び散り、燃えやすいものや児童の衣服に飛び火すると大変である。
- ②落ち着いて、ぬれぞうきんや毛布をそっとかけ、空気を遮断する。

# アルコールランプのあつかい方

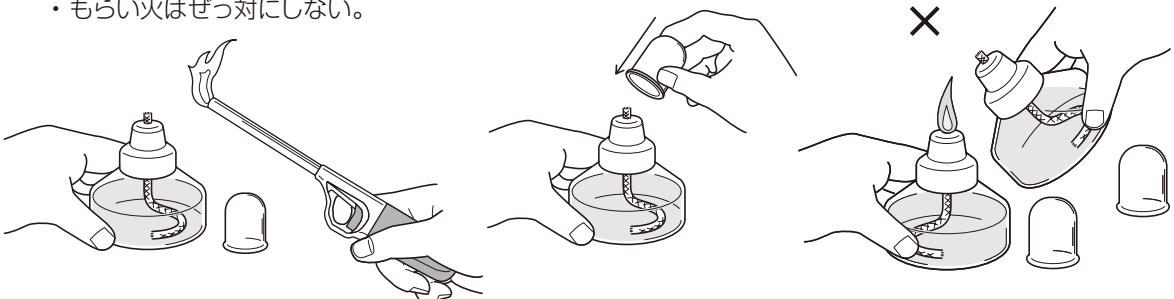
## ● 安全に使うために

### 1 使う前の点けんとじゅんび



### 2 火のつけ方と消し方

- マッチの火を横から近づけ、ななめ上の方向に動かして点火する。(しんには、ふれないようする。)
- 消すときは、ふたをななめ上からすばやくかぶせる。
- もらい火はぜつ対にしない。



### 3 その他安全のために気をつけること

- 本、ノート、筆ばこなどのもえやすいものを火のついたアルコールランプの台にしない。
- 直しや日光の当たる場所で使ったり、置いたりしない。
- 火を消すときは、ふき消さない。

